

# ボツワナだより



▲ボツワナの伝統布Leteisi：  
アフリカの布というと、カラフルで大判な柄を思い浮かべる人も多いと思いますが、ボツワナの布は一味違います。Leteisi、もしくはGerman Printと呼ばれ、19世紀にドイツから南アフリカ共和国のケープタウンを經由して伝わったものだそうです。

## アートなボツワナ

ボツワナへ来て、早いもので1年が過ぎようとしています。この間に会った、知られざるボツワナの芸術を紹介します。

### ① 赤土でできた陶器



◀私の住むモホディツアナ地域の赤土を使った陶器です。軽くて熱にも強く扱いやすいです。側面の模様はボツワナの伝統家屋の壁に描く絵を模しているそうです。落ち着いた風合いが、和食にも合いそうです。

### ② 村の生活を描いた織物



▲設計図は無く、頭の中にあるデザインを頼りに、一本一本全て手作業で織り込んでいくそうです。この作品は村の結婚式を表しています。

### ③ 椰子と草木染めのカゴ



▲ボツワナで最も古い伝統工芸。紀元前にケニアなどから伝わったと言われています。幾何学的な模様や動物のシルエットなどがあります。

### ④ ビーズアクセサリー



◀伝統衣装にこのようなビーズアクセサリーを合わせます。ビーズアートはなんと74,000年前からあり、当時はダチョウの卵が原料だったそうです。現代はお馴染みのガラスやプラスチックのビーズで作成します。



▲服を仕立ててもらっている様子：  
アフリカの多くの国では服の仕立てが一般的です。気に入った布を買い、仕立て屋に持って行き、採寸し、「こんなデザインにして」と伝えます。世界に一つだけの服は、単純なものであれば一週間くらいで完成します。

# ボツワナの小学校

～皆さんはどっちがいいですか？～

## 基本データ

- 3～5歳：Preschool (幼稚園)
- 6～11歳：Primary School (小学校)
- 12～14歳：Junior Secondary School (中学校)
- 15～17歳：Secondary School (高校)
- 18～21歳：Bachelor (大学・学部)

ボツワナの教育制度です。もちろん日本と同様、大学ではなく専門学校へ行ったり、高卒で働いたりする人もいます。義務教育は高校までで、その間の学費は無料です。以前書かせていただいたように、ボツワナはダイヤモンドの利益により、他のアフリカ諸国に比べ、教育費はじめ国が公共サービスにかかる費用が多くなっています。

- 1学期：1月10日～4月4日
- 2学期：4月25日～8月17日
- 3学期：9月5日～11月28日

また日本と同じく3学期制ですが、学期休みが長いのが特徴です。

1クラス30人前後ですが、教室数が足りず、多くの小学校が午前・午後のシフト制をとっています。それでも溢れる生徒がおり、「青空教室」をやっている学校も少なくありません。

## 日本にない教科も！

	0800	0830	0900	0930	1000	1030	1100	1130
MON	MATHS	ENG	ENG	SCIE	SCIE	AGRIC	CAPA	
TUE	MATHS	ENG	S/STU	S/STU	AGRIC	AGRIC	SETS	
WED	G/C	RME	CAPA	SETS	SETS	AGRIC	SCI	S/STU
THU	MATHS	CAPA	SETS	SETS	COMPO	COMPO	ENG	SCIE
FRI	G/C	RME	MATHS	MATHS				

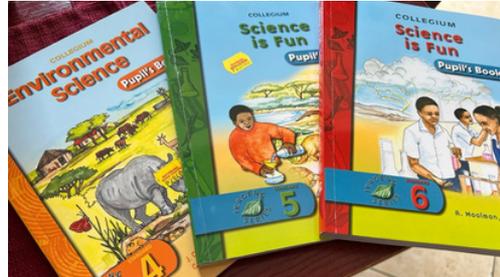
5年生の時間割です。国語であるツ

ワナ語、英語、数学、理科、社会、芸術、作文、農業、宗教モラルなどを学んでいます。1コマは30分です。

## 英語は1年生から！

1年生から教科として英語を学習し、4年生からは全ての教科が英語で教えられます。このため、多くのボツワナ人は流暢な英語を話せます。一方で、英語の理解度＝全教科の理解度に繋がってしまうため、英語で教わることのできる幼稚園に通わせる親もいます。実は義務教育でも留年があるので、歳の異なる生徒が同じクラスに居ることも珍しくありません。

## 教科書はあるけど・・・



教科書は学校の所有物で、生徒が持って帰ることができません。授業の時だけ参照して返却しています。

## この黒板、何の授業でしょう？



正解は、音楽！音楽記号の意味や、楽器の名前などが書かれています。

生徒は楽器を演奏することはおろか、本物を見たり、その音色を聞いたりすることができません。

## 給食は2回？



学校により違いはありますが、登校直後の7:00頃にパンやリンゴなどの朝食、放課後の11:30頃に豆の煮込みやゆで卵等の昼食を食べます。生徒たちはお弁当箱とスプーンを持参し、先生や給食スタッフが1人ずつ支給します。なんとこの給食費も無料です！日本の給食ほど栄養バランスは整っていませんが、子どもたちの食を支えているのは間違いないでしょう。しかし給食を食べずに、学校の外で売られているお菓子を買って食べる子もいます。

## 今も残る体罰・・・

最もショックだったのが、教師から生徒への体罰が平然と行われていることです。宿題を忘れた、授業中に私語をした、答えを間違えたなどの時に、木の棒で手や背中やお尻をカ一杯叩くのです。私は当然体罰をしません、普段体罰で制御されている子どもたちが騒がしくなった時は、いくら言葉で諭しても静かにはなりません。

# ボツワナでうどん教室を開きました！

「ボツワナでうどんを振る舞う」というのが、メインの任務以外に成し遂げなかったことでした。赴任1年を迎えようという頃、ようやく達成できました。これで胸を張って香川県に帰ると、安心していきます。

知人が運営する多国籍文化イベントに出展できることになり、本当に幸運でした。うどんの麺は小麦粉と塩と水でできますが、こねる加減が難しいです。納得いくまで練習し、英語でレシピも作り、本番に臨みました。



「次は足で踏みます！」と言うと驚きながらも熱心に踏んでいる来場者たち。



小さなイベントだったにも関わらず、計14人がうどん作りに参加してくれ、大忙しでした。濃い味付けを好むボツワナ人にウケるか心配でしたが、皆さん「美味しい！」と食べてくれました！